

## 議事録(質疑応答部分のみ)

小野副部長

何か質問等お願いします。切り出しに関しては前提が異なるということもあると思いますが、農作業の切り出し作業を進める上で課題や工夫などでご意見を頂ければと思います。また、障害の方に農作業を手伝って欲しいと思っている農業者の方のご意見頂ければと思います。

高知県農業協同組合安芸営農経済センター 小松 様

障害を持った方を受け入れる際に、そもそも農家さんは人を雇ったことがない人もいます。一般の方であっても、ナスを剪定・収穫する作業をする時に、言葉で説明しても中々理解できない。収穫するナスの見本や絵にして説明する、実物を見せながら、といった説明が必要になる。障害を持った方についてはその方がどれくらい理解できるかが分からない。言葉より可視化をして取り方などを教える。それも繰り返し何度も説明しないと、なかなか理解できない。そこで、安芸地区はサポーターを一人配置しているので、農家さんも毎日教える時間は無いのでサポーターが初めて仕事をする方に最初の一週間から三週間について教える場合もあるが、本人が理解してくれないと先に進めない。その方の気持ちを考えながら丁寧に根気強く教えることが大事。ただ、なかなかそうはいつでも厳しいところはあります。振興センターでYouTubeや資料を見て頂いて、帰って復習してもらう。そういった形で勉強してもらうという形にしている。受入農家さんの拡大については安芸地区も立ち上げ当初は農家さんの理解が得られなかったもので、まずは勉強会を開き、農家産に実際の現場を見てもらい、特に受け入れて頂いた農家さんから成功事例や気をつける所や苦労したところを正直に話して頂いて、では、どういうところに気を付けていけばいいのか、どうすれば定着につながるのかをポラリスさんや福祉保健所、福祉事務所の方に研究会の中で協力して頂いている。農家さんとしてはマッチングは良いが定着に向けたフォローが厳しい。農家さんも働く人も不安を抱えている。お互いが不安を抱えている状態では、なかなか定着に繋がらない。そこに支援機関やサポーターが入り、すぐに繋がるシステムが出来たので、お互い考えながら徐々に定着に向かってきている。うちにもサポーターがいるが、現状足らないのでもう1人増やしていきたい。

高知市農業協同組合営農指導課 中島 様

高知市の場合、個別の対応が大半となっている。切り出しの課題については各農家さんによってということになっている。具体的な事例でいくと、高知市の場合ミョウガのハウ

ス農家さんが個人的に受入をして下さっている方や、花卉(グロリオサ)農家さん受入して下さっている方がいる。大事なことは来られる方の個性や特性によって違いがある。発達障害の方はこだわりがある。別の障害を持っている方なら集中力がある、手先が器用など。この夏に三日ほど、ある農家に片付けの作業に行ってもらった方、発達障害のある方で農業に関する経験があるとのことで日雇いでハウスの片付け等に行ってもらった。これをものすごく一生懸命やってもらったが、栽培となると細かい作業が苦手だから出来ない。どういう方を受け入れるかで細かい作業が良いのか、力仕事が良いのかといった所の理解度というのは必要。そこから切り出して仕事を振っていくことが大事なのではないか。後は小松課長(JA高知県)が言われたように可視化が必要。先進地域に行くと大きなパネルに作業を分解して写真を出して説明したり、大きな表を作って順番を書いているのであったり等の工夫をしているところがありました。それから農家さんの希望している形態が多いのかどうか、これは農家さんの意識による。大きく分けて2つ。とにかく誰でもいいから一人が欲しいという農家さん。これは外国人なんかを受け入れるところなども一緒に発想になるかと思うが、これは少なからずいる。もう一つは福祉という形で受け入れてくれる方。理解度によって違うが、農福を理解してウチでという方はまだまだ少ない。どちらかと言うと、高知市は小規模個人経営で人出が足りていないというのが切実な問題なので、ここはなんとかしたい。その中で色々勉強されて、ここ数年受け入れてくださっている農家さんは、まず受け入れてその人になじんで貰うということを一番に考えている。その方は最初障害を持っている生活困窮の方を受け入れて頂いて、簡単な作業から始めて徐々に広げていくということをやりながら、別の期間限定の片付け作業を福祉事業所さんに来て頂いて施設外就労でやって頂くといったことがある。我々も農家さんにそういったことを理解する努力が必要。ただ、人出が足りていないので、一件一件回っていくということは出来ない。それから花卉の農家でこの夏から昨年の秋にかけて就労体験をしてもらった方で一旦通勤距離の関係で辞めた方がやはりやりたいということで今年の6月から三里の園芸農家さんに行っているが、長いことやっていると色々出てくるので、そのフォローを紹介して下さったハローワークさんや高知市の障害者福祉センターの方にサポートしてもらっている。そういうサポートをする体制は我々だけでは出来ない。県の定着支援のサポーターの方が今年から入ってくださっているが、そういう方が居てくれ、支えてくださるのは、現場としては非常に必要なのではないかと思います。

小野副部長

福祉関係の方でウェーブさん、施設外就労に取り組まれているかと思いますが、その取り組みとか課題とか、施設外就労に取り組む中でのお話をお聞かせいただきたく思います。

しごと・生活サポートセンターウェーブ 中越 様

私共は、障害福祉サービスでA型B型、相談支援という形で取り組みをさせて頂いている事業所で、農福の取り組みのきっかけは2019年の2月に改良普及所と農業会議所の方の主催で先進県の視察で島根県に伺い、その後香川県にも伺ったかと思うが、それがきっかけで前(高知農業改良普及所)チーフの小笠原さんとやりとりをする中で天津のミョウガ農家に行くようになった。福祉事業所の立場でお伝えすると、3つの農家さんとスポットで取り組みさせて頂いているが、どの農家さんも障害というところをあまり認識していないのが上手くいっている材料なのかと思う。障害は手帳を持っている方が数に数えられるが、全てが生きにくさや、やりずらさがある訳ではなく、人によってはコミュニケーション、金銭管理など様々ある。その方が農業に関して何が出来て何が出来ないかというところが切り出しの話も出ていたが、自分たちの専門性が発揮できる所だと思う。私たちは農家さんも含めたヒアリングを大事にしている。何を求められていて、どれくらいの期間でどれくらいのものを仕上げたいのかをしっかりと聞いているのと、実際に実施した後に事業所に来て頂いて、施設外就労で利用者が行く方行かない方がいるが、先ほどどこかのプラットフォームで希望者がいないという話があったが、知らないことへの不安は利用者さんも事業者も農家さんもどこの地域も抱えていると思う。それを知る楽しみに変えるためには実際に来てもらって話を聞いたり、実際に作業がどうだったかを利用者さんの声で利用者さんに伝えてもらうという事が大切。昨今、ピアサポーターというものが障害福祉領域で診療報酬で入っているし、安芸の取り組みもNHKで取り上げられていたが、実際に障害当事者が自分で新規就農をして、そこで生き辛さを抱えている方を雇用したいということが推進されることを考えると仕事のことだけではなく、その方自身のことを知る必要がある。天津の谷さんがお昼ご飯を一緒に食べてくれたり、ミョウガの取ったものをどんな風にしたらやみつきミョウガのように作れるかというのを実際ウェーブに来て奥さんと作ったりということをして相互理解を深めていって、「谷さんはこういう人なんだ」といったことが分かったり、谷さんも障害者の人としてではなく、この人はこんな人だと理解を進めているのは大きい。課題に関しては移動であったり、暑さであったり、また、農家さんは朝早く夕方という形で仕事をしている所が多いが、福祉サービスはどうしても日中の9時～3時や9時～4時というのがコアタイムになるので、その時間のズレを変更するのも重要な課題だと考えている。それ以外にも個人事業主が多く、県の方の農業版ジョブコーチの制度であったり、ピアサポーターも含めた様々な支援を考えられていると思うが、労働保険に入っていない個人事業主では5人以下でもできるが、書類の手続きなど私の偏見だが農家さんは苦手な方が多く、敷居が高い。そういう所で、助成金や使える制度があれば就職した後の定着も制度設計されている部分で使えるところ沢山あると思っている。デメリットは無く、やりがいがあったり生きがいに繋がると思う。ウェーブとして

は、今後も積極的に進めて行きたいと思っているが、福祉事業所さんでも定期で普段からやりとりされている所があると思うが、私共としてが常時、毎日は難しいので、逆に農閑期がある農業の仕事がスポットスポットで入られるのがメリットに感じている。今後も引き続き皆さんとやりとりしながら進めていきたい。

小野副部長

ありがとうございます。予定時刻になってしまいましたので、次の機会にさせていただければと思いますが、最後に、高知労働局さんからハローワーク等での求人状況とか、お聞かせいただくことは可能でしょうか。

高知労働局 小松 様

数事的なことになるが、農業関係の求人で今年4月から現時点まで199件出ている。フルタイムが86件、パートが109件、季節が4件となっており、障害者求人はその中で1件しかない。障害者の方に関しては一般求人に応募されるということも多々あるので、農業関係の求人については今後も多くしていく余地はあるかと思われる。就職関係だが、現在登録されている方で県下で33名が農業関係を希望している。また、昨年度の状況で就職された方は農林水産業含めてになるが、24件の就職となっている。

小野副部長

協議は以上になりますが、最後に一言だけ、皆様、本日はありがとうございました。皆様方の情報提供で本県の農福を進めて行くための共通の認識と体制の話ができたかなと思います。関係者の皆様の協力によって農福連携が進んでおり、さらに推進していくために農業福祉相互の理解の促進、以前から行っている取り組みを加速化していくことが必要であると感じています。来年以降になるが定期的に開催して関係者の情報共有を図りながら、農業の担い手の確保と障害のある方の働く場の確保を基本原則とした上で、県の産業振興計画、長寿県構想を考えた目標達成に向けて取り組みを加速化していきたいと考えております。今後とも皆様のお力添えをお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。